シリーズ。その 5
大学研究所めぐり
塚田 守
であれば水問題論の扱う人間活動とは、両者の結び
つきの関係を明らかにすることになるのではないで
あろうか。これはフィジカルなものがソーシャルな
ものに、ソーシャルなものがフィジカルなものに相
互に影響を与え合うということを意味している。
現在の新しい問題に立ち向うに際して、ますます
学際的な研究が必要とされているのである。学際的
な研究によって各ディスイプリンが発展するという
3年前の夏の渡米は、遠い昔のなつかしい思い出
になってしまっている。
留学体験記ということで、二点のことを述べたい
と思う。私の見たアメリカの大学 (ミシガン大学)
の授業、一留学生として、私自身、一番感じたこと、
この二点について。
大学の英語での授業は、厳しかったものと思い出
される。私が、出席したコースのうち 2つの例で、
典型的な授業内容を紹介したい。第 1に、「 アメリ
カの価値観」 (アメリカ研究、 3年生用)の講義は、
週に、60分のものが 2回、90分の討議クラスが 1回
であった。この討議クラスに参加するためには、あ
らかじめ、リスト・ アップされている本を半冊ある
いは 1冊を読んで、内容を理解しておくことが必要
であった。勿論、後で気づいたことだが、すべての
学生 (15名)が、読んでいた訳でもなかった。しか
し、留学生 (すくなくとも、私には)ざっと目を通
すだけでも不可能であった。しかし、やっていかな
ければ、参加できないのは勿論、理解することも、
不可能であった。だから、私のできたことは、でき
るだけ早く読み、理解できたところだけをノートに
整理するということだけだった。この毎日の reading
assigumentsの他に、レポート、タイプ用紙10枚
が 1回。中間、期末テスト、Tak Home Examで、
問題を自宅で解答する形式のもの、それぞれ、タイ
プ用紙 5枚～10枚。
第二の例としては、社会心理学であるが、冬期に
出席した授業なので、少しは楽になると思っていた
が、授業の形式が異っていて、この授業も、私には
広島大学総合科学部報『 飛翔 』NQ 17
情況に学問の発展段階が到り、また現実がそれを要
請しているのであろう。しかし、学際的研究をいか
にすすめるかという方法は未だ確立していない。そ
れは、本来総合的なものである現実に柔軟なかつ真
摯な態度で立向うほかはないというのが現状である。
社会文化研究・助手
困難であった。講義と討議クラスの時間配分は、
「アメリカの価値観」 と同様だったが、毎日の50～
100ページのReading Assiguments に加えて、
1週間に 1回、 2枚のレポート、基礎的な概念を学
び、それらを、自分の日常生活に応用したエッセイ、
を書くという課題であった。このエッセイを、10回
ほどだすのだが
｀good｀ がでるまで何回でも書き
直させられた。勿論、中間、期末テストもあり、教
室で、時間を限られて受験した時、全く、閉口させ
られた。
以上のように毎日(月 ～金)が忙しく、久しぶり
に、受験時代を思わされたものだった。しかし、意
外に、苦しい気分にもならず、ゲームのように、や
っていたと記憶している。他の学生たちも、同様に、
勉強させられていたので、そのように思えたのかも
知れない。今、思えば、床に座り本を読み、図書館
の閉館、午前 2時まで、友人と一緒にいたことは、
-29-

楽しいことのような気がする。
勉強をゲームのように (内容が、どれだけ消化さ
れていたかは、疑間)「楽しんだ」以外に、留学が、
私にとって意義があったと思えることが、もう一点
ある。「 自己の再確認」であったと思う。最初の頃
アメリカ人を含めて、色々な人々と友人になりたく
て「努力」 した。しかし、その結果、話せる友人は
広島大学総合科学部報『 飛翔 』NQ 17
だれもできなかった。「友人が欲しい」 と思ってい
たこと、自分を、無理に、他の人に合わそうとした
こと、が、友人のできなかった原因であったかどう
か、不明だが、ある時期、諦らめて、「 もう、自分
の好きなようにやって行く」 と決心してからは、不
思議なことに、話し合える友人ができた。つまり、
開き直って初めて、アメリカでの生活が、自分にも
自然になり、他人にも、そのように見えたのであろ
う。仲よくなった友人数名とCo― op CoOking(そ
れぞれが、週 1回、食事当番を受け持ち、共同に、
食事をすること)をやり始めた。食事の後の雑談、
そしてそれぞれが、図書館なり、実験室などに出掛
けた。この食事中の会話と彼らがいなかったならば、
私の米滞在は、全く、無味乾燥になっていたにちが
いない。勉強をするにしても、遊ぶにしても、私に
は、常に、回りに、気のあった友人が、必要なのだ
という「 自己確認」であったのでないかと思う。
地域研究科ヨーロッパ・ アメリカ系コース
修士課程 2年次
国際交流協会奨学金により、昭和52年 8月より53
年 6月まで、ミシガン大学にてアメリカ研究を行
なう。
<配置換>
121 槙田
石井 修 (英米研究助教授)
渡航先シンガポール、オーストラリア
目的 1986年日豪会商に関する研究調査
期間
“
919～ 551031
鈴木修次 (アジア研究教授)
渡航先中華人民共和国
学部の記録
一人事異動 ―
和子 (学務第二係)
庶務部人事課給与第二係ヘ
一海外渡航者一
(出張および研修)
目的
期間
藤井博信
渡航先
目的
北京大学における学術講演及び学術研究
のため
55 913-55 9211
(基礎科学研究助教授)
アメリカ合衆国
金属水素化合物のエネルギー貯蔵、吸蔵
-30-

に関する基礎的研究
期間 55.■ 9～ 5an 8
荒木博之 (英語教授)
渡航先オーストラリア、シンガポール
目的 」ETROの派遣による日本文化紹介の
講演並びにオーストラリア文化について
の資料収集
期間 55.929～ 5a1013
古前恒 (自然環境研究教授)
渡航先フランス
目的第 8回国際精油会議出席
期間
“
1011～
“
1020
福岡義隆 (自然環境研究助教授)
渡航先インド
目的昭和55年度科学研究費補助金による「南
インドの干ぼつ常習地域における農業開
発と地域変化」に関する調査
期間 551011～ 55.1210
米田巖 (英米研究助教授)
渡航先インド
目的昭和55年度科学研究費補助金による「南
インドの干ぼつ常習地域における農業開
発と地域変イロに関する調査
間 i551011～ 阻 1.12
邦人 (自然環境研究助教授)
広島大学総合科学部報『 飛翔 』No 17
渡航先アメリカ合衆国
目的都市環境におけるコケ植物の種生態学的
比較研究
期間 55.1016～ 56815
堀 信行 (自然環境研究助教授)
渡航先フランス、カメルーン、ケニア
目的昭和55年度科学研究費補助金による「 ア
フリカにおける熱帯雨林、サバンナ地帯
の環境変遷調査」のため
期間 55124～
“
24
清水廣一郎 (ヨーロッパ研究助教授)
渡航先イタリア
目的昭和55年度文部省科学研究費補助金によ
る「地中海地域における過疎に関する調
査」のため
期間 551129～ 5621
中根周歩 (自然環境研究助手)
渡航先大韓民国
目的漢江及びその流域生態系における環境動
態に関する基礎的研究のため
期間 5511.15～ 55.124
前田利昭 (アジア研究助教授)
渡航先中華人民共和国、香港
目的中国文学界の視察と交流
期間 E211～ 551223
期
根平
｀｀ヽ_´// 瞳が俺の中をゆっくりと浮揚し始める。不気嫌。
睡魔を断ち切るように思いきり窓をあけると、窓の
外は雪。あら′広島に定着した「 日常」が一瞬消え
去る。
新しい明日を。 (乙武隆司)
山陰に育った私にとって雪の積らぬ冬はあまりに
さみしく、中国山地から吹き込む風が、冷え症の身
にこたえます。 2ん夕たった冬に…… (岡田敏子)
はるばる大阪まで出向いたというのに学部長に会
えなかった。これでもし、みんなが読んでくれなか
ったらどうしようoでもまあいいや、大阪のフライ
そばは最高だったから。
これからも編集長のおごりを糧に頑張るぞ。
(安永省二郎)
編集の仕事は、全くはじめての経験ですら今考え
てみると、何をやったのか全然記憶にない。しんど
い、疲れた ?、とわめきたいけれど、きつい仕事は
全部、先輩にまかせっきりだったようなんですよね。
3年の先輩方、御苦労様でした。 (成田実香)
今号より登番いたしました新人でございます。以
後おみしりおきのほどを。今回は、ほとんど仕事ら
しい仕事もせず、皆の足を引っぱってばかりいた様
に思います。自己分析するに、熱し易くさめ易いタ
チなので、いつまで続くか、はなはだこころもとな
いのではありますがとにかくガンバリマス″
(松浦豊)
く編集後記〉
-31-

・●
＝・

「I。イ記|■‐|:ヽ ■|:書ヽ・||[:|■ liソニ:11■ 1
!‖!○ ×○△……外義■留年11(.としチ議ン
iで精 る.う・ r葬イ、「・も:il:ll彗.'FI1 li こ
. ‐ ` |● ||11 ・・ 1
今回、華々しく初登場。|とし｀うわけで仕爵感少なかったのですが■摯嗜1 1(懇な拠機|よIじあき)= lj = ` i l tlヽ 、ヽ| . : ・・ | ljl 11■
・ やお箱解:1軽ら竜曹号わ雌頸がおわうたア ■ 11鶴縛憎:罪爺 動 力ゞらナ■も 1
ヨッシッ′ ‐購 も雇醸穆靭な■ま
=.:〔雲居1可リ

| ||| | :「||||:
I事
"■

■|11■]■ ■1:|マ■卜■ ■ 1.
ll章■■ |●:ヽ1薇
=|■

111■ ■|
■1111,li

11111 11:11■ = :| ‐
lit ■ ‐■■=:■

■ ■11■ ■

=i‐

111111

1■

広島大学総合科学部報『飛翔』No 17
11月 の下旬になって●十■年藁の新多い編集委員が 3名加わってくれた3これ節もおこお豪予議、むさ

ぼりつつt編集に頑張りま,し■うす111.3・ :' あっ おなから、前号に続きこカワ■イ●:澤蒙ス

キ調鞣1雌の「

よ:じニユ澪.みてした■■―(羅紆|)。

. ' |: 1 ■ | :: :i l‐ ■ ■

尚t今回のサークル紹介で=溜隣暫きなかったも
のがありましたら、'籍機存在をお知らせ下さい| :|■.ltⅢ

=1■

・ 1(中上京治|)

■1

諜,まト

キ
'|

一」メ 一一

肇一〓

一

≪鷺L墨聾

|:111,ヽ |:讐|'

|ヽ キ ||ヽ｀難Jキ|■

=:ヽ

:!

: ■ ■.11■■■ |
11:1 1 11 .t,|｀ 11 ‐
1 1,タ ー■11‐ t.・ `. ‐

●■1■ 11メ■ .、 ||:

|‐ 11.■ il｀ =抒■ |
||ll i,lr 11.111111:

一■
「■‐

■

馨 ■
= 11.,J'1ヽ

‐11■ |■ lF=|■ i(|
|● 111′ F=た1,|ュニ■:・ =“
I Ⅲ■11■ II ‐

為 1'■ 1lⅢ =

:●

II:

| :|■ .:=キ 111 FI: ■]: (.
■年1‐ 1 1:‐ ■|.1■ ヽヽ1 , I｀.:■ i
■ ■ 1‐ ■ 111 :[′ |||‐ ri=■ 11:.:
:・・ 嶽濃,

卜、|||.■ ‐1 :.、 イキ リ,|

争ヽ

|:● 1■ ′|‐ ‐■・
' | ` 1 11 11 14・

:11:1'1

- 32-

JI彙li撃i